

平成 2 9 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

吹田市内の府立高校として最も長い歴史を持つ本校は、「伝統校」の誇りを持ち、地域に根差した信頼できる学校として生徒の持つ能力を最大限引き出すことを目標としている。とりわけ、以下の3点の力を身につけられるよう、生徒自身の「人間力」を育むため、教職員が一体となり、保護者、地域と連携して多様な取組みを進めていく。

1 自己を理解し、他者を認め、社会の中で望ましい人間関係を構築する力 2 確かな知識や技能をもとにして自ら考え、判断・表現し、主体的に学び続ける力

3 心身ともに健康であり続ける力

2 中期的目標（H29 年度～31 年度）

1 自己を理解し、他者を認め、社会の中で望ましい人間関係を構築する力の育成

- （1）基本的生活習慣の確立と確かな規範意識をはぐくむ
- ア 遅刻「0」の学校をめざし、学校をあけて「朝ガク」の充実、遅刻指導の徹底を図る。また、身だしなみ指導（頭髪・制服の正しい着用等）の徹底を図る。
※平成 31 年度には遅刻総数を 2000 件以下とする。（ H27：3,208 件 H28：2,785 件 ）
- イ 授業規律を徹底するとともに、自転車マナーの向上、情報モラルの育成を図る。
※生徒向け学校教育自己診断の規範意識に関する全ての項目の肯定率（ H27：86.3% H28:89.9% ）を平成 31 年度までに 95%以上に引きあげる。
- （2）学校生活における様々な活動を通じて、自己を正しく理解した上で、他者を認め、望ましい人間関係を創り上げる力をはぐくむ
- ア 行事を通じて育成される生徒の自己肯定感と自己有用感を高めるため、学校行事・HR活動の「質の向上」をめざす。また、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を高め、新たな提案や活動ができる人材を輩出できるよう、生徒・生徒会執行部の主体的な活動を積極的に支援する。
※生徒向け学校教育自己診断における学校生活全般に関する項目の肯定率（ H27:71.7% H28:74.0% ）を平成 31 年度には 85%以上とし、生徒向け学校教員自己診断における学校行事における自主性・積極性に関する肯定率（ H27:82.8% H28:87.0% ）を H29 年度には 90%以上とし、それを維持する。
- イ 部活動への加入を促す取組みを計画・実施するとともに、部活動の質の向上をめざす。さらに、学校見学会を活性化し、より多くの中学生の参加を図るとともに本校生徒の運営への参加を広げ、中学生との交流の機会を増やすことで「吹高生」としての自覚を高める。
※部活動の加入率（ H27：40.8% H28:40.6% ）ならびに部活動に対する満足度（ H27:92% H28：91% ）を引きあげ、H31 年度には加入率を 55%以上、満足度を 90%以上を維持にする。
- ウ 人権及び人権問題に関する正しい理解を深め、いじめを許さないことはもとより、互いを認め、尊重していくことのできる精神を育む。
※生徒向け学校教育自己診断の人権に関する項目における肯定率（ H27:67.6% H28：72.9% ）を毎年引きあげ、平成 31 年度には 80%以上にする。
- （3）生徒が主体的に進路目標を定め実現できるよう、「展望を持たせる取組み」を通じて、社会の中で生きていく力をはぐくむ。
- ア 「進路のてびき」を作成し、系統的な進路指導計画への改善を進め、1 年生から 3 年生までの学習進行に応じた計画的進学講習のさらなる定着・発展に努める。
※進学講習へののべ参加生徒数（ H27：341 名 H28：588 名 ）を平成 29 年度には 650 人以上とする。
- イ 進路検討会議の定例化により、生徒の進路実現にむけた課題を早期に発見確認し、3 年間の長期的展望にたった具体的支援策をチームで実施していく。
※生徒向け学校教育自己診断の進路指導に関する全ての項目の肯定率（ H27:78.6% H28：82.5% ）を毎年引きあげ、平成 31 年度には 90%以上にする。

2 確かな知識や技能をもとにして自ら考え、判断・表現し、主体的に学び続ける力の育成

- （1）生徒の持つ学力を最大限に引き出す
- ア 公開授業、研究授業の定期実施、授業アンケートの個人・科目・教科による系統的かつ綿密な分析等に基づき、シラバスおよび「吹高 CAN-DO リスト」の充実させるとともに、ICTの活用促進や「主体的・対話的で深い学び」の実現により、さらなる授業改善に組織的に取り組む。あわせて、これまで蓄積してきた「朝の学習会（朝ガク）」に関するノウハウを整理し、継続的に基礎学力の定着を図る。
※生徒向け授業アンケートにおける授業等学習活動に関する満足度（満点 4.0／ H27：3.1 H28:3.13 ）を平成 31 年度には 3.2 以上に引きあげ維持する。
- イ 個別自習室・マルチルーム等の活用促進を図り、生徒に自学自習の習慣を定着させ、進学実績のさらなる向上に努める。
※2 年次 1 月の基礎学力調査の結果（Cゾーン以上 H27：33.3% H28：22% ）を段階的に引きあげ、平成 31 年度にはCゾーン以上の割合を 40%以上に引きあげる。
- （2）生徒の力を育成する新たな教育課程の構築、取組みの充実
- ア 学習指導要領の改定に基づき、グローバル化情報化等の社会の加速度的変化に対応できる「問題発見・解決能力」、「論理的思考力や探究力、コミュニケーション能力」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するための新たな教育課程の作成、および取組みを実施する。
- イ 平成 23 年度入学生から開設したこども未来専門コースについて、大学等との連携強化をはじめ近隣の幼稚園・保育園との協働によるデュアル・システムの導入など生徒の総合的な資質の向上に向け、円滑な運営推進に努める。
※こども未来専門コースを選択した生徒たちにアンケートを実施し、コースで学ぶ内容等についての満足度（ H27:100% H28：97.2% ）を 90%以上で維持する。
- ウ 平成 25 年度入学生から開設した「進学クラス」に対する習熟度別講座ならびに土曜講習等を「吹高 CAN-DO リスト」に沿って計画的にレベルアップする等、進学PTを中心として学力向上に向けた取組みを組織的に実施する。また、進学クラスでの成果を踏まえて、補習・講習の充実、質問会・宿題の量的見直し、個別自習室の利用促進などによって授業外の学習時間を増加させ、生徒全体の学力の向上を図る。
※進学クラスの生徒が受験する外部模試の偏差値 52.5 以上の生徒数を、平成 29 年度には 20 人以上にし、それを維持する。
※平成 31 年度には、関関同立・産近甲龍レベルの難関・人気大学への合格者 60 人以上をめざす。（H27：12 名 H28:30 名 ）

3 心身ともに健康であり続ける力の育成

- ア 保護者や校外の関係機関との連携を強化するとともに、月 1 回の生徒情報会議（みかん会議）を充実させ、課題のある生徒の早期発見・対応を図る。加えて、生徒相談室の開放、スクールカウンセラーの活用を通じて、支援や指導が必要な生徒により適切な形での支援・指導を行う。これらの体制を十分に機能させることにより、生徒が自らの心身の状況を正しく理解し、学校生活に適応していく力を育成する。
- イ 清掃活動、救急講習、性教育講演会、薬物乱用防止教室等を通じて、将来につづく健康管理・自己管理の意識を育成する。
※生徒・保護者向け学校教育自己診断等の教育相談に関する項目の肯定率（ H27:74.4% H28：77.3% ）を毎年引きあげ、平成 31 年度には平均 90%以上にする。
同じく、生徒・保護者・教員の清掃に関する項目の肯定率を（H27：生徒 32.5%、保護者 67.9%、教員 15.5% H28：生徒 61.1%、保護者 74.2、教員 27.1%）を毎年引き上げ、平成 31 年度には平均 80%以上にする。

4 校内組織・教職員集団づくり、保護者ならびに地域との連携の強化

- （1）運営委員会を中心としたミドルアップ・ダウンを確実に定着させ、学校運営の機動性をさらに高める。また、これまで以上に積極的・意欲的で一体感のある教職員集団の構築をめざし、学校経営計画の実現に向けた建設的な改善策や新たな取組みが、誰からも提案される学校風土を醸成する。
- ア 学校運営に関わる大きな取組み・計画について運営委員会で議論を深め、目標を共有した組織的、一体的な取組みを確実に定着させる。
- イ 首席を中心に、学務グループ（教務部・進路部）、生徒グループ（生徒指導部・生徒会部・保健部）が、それぞれグループ内の連絡調整をより円滑に行う。
- ウ 校内研修（ミニ研修）の機会を増やし、常に学び続ける教師集団を形成する。
- （2）ICT等、校内ネットワークを活用し、校務の効率化に努める。
- ア 教職員が生徒と向き合う時間を確保するため、省略できる連絡事項は校内メールによる情報共有をさらに促進するとともに、会議資料の簡素化、職員会議の内容のさらなる充実を図る。
- （3）地域や保護者との連携強化、広報活動の充実を図る。
- ア 体育祭・文化祭やクリーンキャンペーンなどの学校行事への保護者・地域住民のより積極的な参加を図り、生徒・教職員との交流の機会を拡大する。同時にPTA実行委員会等への教職員の参加を促し、状況報告、意見交換を行うなど双方向的な関係の深化に努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重 点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 自己を理解し、他者を認め、望ましい人間関係を構築する力の育成	(1) 基本的生活習慣の確立と確かな規範意識をはぐくむ	ア、生徒の遅刻防止に対する意識の向上をめざす。そのために、細かい目標設定を行い、本校における遅刻指導について、教員のさらなる理解を深めていく。遅刻だけでなく、欠席状況にも注意しながら基本的生活習慣を確立させる。 イ、頭髮指導において、指導経緯を再確認するとともに、生徒へのアプローチを丁寧に行い、頭髮指導に関する生徒の理解を深め、自律を促す取り組みを展開する。 ウ、生徒、保護者への連絡を密に行いながら、生徒の自律を促し、家庭と学校とが連携強化をはかるとともに、制服・ピアス等身だしなみ指導の徹底をめざす。特に新制服に関するルールの周知を丁寧に行い、スムーズな定着を図る。 エ、1年生の自転車交通安全講習会や交通キャンペーン及びポスターなどを通し、継続的な交通マナーに関する指導を行い、生徒の交通マナーに関する意識を高める。それにより、自転車通学者を中心に交通安全意識の向上をめざす。 オ、授業マナー（机上整備・準備の徹底、携帯電話電源OFF等）について、具体的取組を検討し、学年団とも連携のうえ、生徒への働きかけを強化する。 カ、1年次に基礎的な情報モラルを育成するため、人権教育推進委員会・情報科・学年が連携し計画的に学習を実施する。	ア、継続的に調査している年間遅刻件数を2500件以下とする（H28：2785件） イ、年間の頭髮帰宅指導件数を30件以下とする（H28：22件） ウ、年間の服装違反指導を5件以下。服装指導における預かり指導件数を20件以下（H28：0件、15件） エ、生徒向け学校教育自己診断における登下校マナーに関する項目の肯定率90%以上（H28：87.4％） オ、生徒向け学校教育自己診断における授業規律に関する項目の肯定率75%以上（H28：71.2%） カ、学習後の理解、認識の向上に関するアンケートの肯定率90%以上（H28：93.3%）	
	(2) 様々な活動を通じて、自己正しく理解した上で、他者を認め、望ましい人間関係を創り上げる力をはぐくむ	ア、生徒会執行部とそれ以外の生徒の連携を促し、生徒が自主的・積極的な活動を展開できるような支援を行うとともに、それを実現し得る校内体制をさらに強化する。 イ、校内外に向けた部活動の情報提供を活性化し、部活動の質・量、両面での向上を支援する。 ウ、・いじめアンケートの実施による実態把握と、迅速な対応を行う。 ・3年間を見据えた人権HR計画の更なる充実と円滑な実施を行う。	ア、生徒向け学教育自己診断における、学校行事への自主性・積極性に関する項目での肯定率90%以上（H28：87%） 教員向け学校教育自己診断における、学校行事の組織的な取組みに関する項目での肯定率60%以上（H27：56.3%） イ、クラブ部員向け満足度調査における、部活動に対する肯定率90%以上（H28：91%） ・生徒、保護者向け学校教育自己診断における部活動に対する肯定率80%（H28：77.5%） ウ、生徒向け学校教育自己診断における人権教育に関する項目の肯定率75%以上（H28：72.9%）	
	(3) 生徒が主体的に進路目標を定め、実現できるよう、「展望を持たせる取組み」を通じて、社会の中で生きていく力をはぐくむ	ア、3年間を見通した「進路指導計画」や「模擬試験の年間計画」等を年度当初に生徒に提示し、進路実現に向けて生徒が主体的、計画的に取り組むように促す進路指導を行う。 イ、各学年の実態に応じた「進路ガイダンス」を実施する。 ウ、「吹田進路プログラム」の再検討を通じて「進路のてびき」の内容および使用方法について改訂を行う。 エ、就職希望生徒（学校斡旋及び公務員）に対して、より細かな指導を行う オ、「進路検討会議」の定着を図り、進路実現に向けての課題を早期の掘り起こし、早期の計画的支援につなぐ。	ア、「進路指導計画」および「模擬試験の年間計画」等を6月までに生徒に提示 イ、各学年進路HRにおいて、「進路のてびき」を使った進路学習を計画的に実施 ・「進路ガイダンス」は各学年の発達段階に留意しつつ実施し、3年は2学期までに3～4回開催 ウ、・「進路のてびき」の内容の充実に向けた改定をし、1学期中に配付する エ、就職希望生徒（学校斡旋）の卒業時の内定率100%（H28：100%） オ、「進路検討会議」を、1,2年生は年1回、3年生は1学期に1回、2学期に2回実施 ・生徒向け学校教育自己診断における進路指導に関する項目の肯定率85%以上（H28：82.5%）	

府立吹田高等学校

2 確かな知識や技能をもとに考え、判断・表現し、主体的に学び続ける力の育成	（１）生徒の持つ学力を最大限に引き出す （２）生徒の力を育成する新たな教育課程の構築、取り組みの充実	ア、・進路指導部、学年、進学PTが連携し、進学講習、個別自習室、学習アプリケーション等の利用の推進について取組みを進め、自学自習する生徒への支援を充実させる。 ・学年主任を中心として、「朝ガク」を「基礎学力の定着」「学習環境の確立」の両面から、３年間見通したベースプランの策定を行う。 イ・観点別学習状況を踏まえた年間計画（シラバス）充実を図る。 「吹田進路プログラム」との関連性を整理したうえで、新「進学クラスCAN-DO リスト」の改訂を行い、内容の充実を図る。 ・年２回（７月、１２月）の授業アンケート結果をもとに組織的な授業力向上策につなぐ。 ウ、ICT活用授業、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、校内外での研究授業・研修などを通して各教科の授業力の向上を図る。	ア、２年次１月の基礎力判定テストの学習到達ゾーンCゾーン以上の割合を30%以上（H28：22%） ・進学講習の受講者のべ650名以上（H28：588名） ・「朝ガクベースプラン」の策定 イ、新「進学クラスCAN-DO リスト」の更なる改訂 ・授業アンケート結果の平均3.15以上（H28:3.13） ウ、校内研究授業を年間8回以上の計画的実施（H28：9回）	
	心身ともに健康であり続ける力を育てる	ア、・多様な生徒情報を保健部主導による月１回の生徒情報会議（みかん会議）で共有し、課題のある生徒への早期対応に取り組む。 ・学校医・学校歯科医・学校薬剤師、養護教諭による健康相談を随時実施し、生徒や保護者が有する心身の健康についての悩みや相談にいち早く対応する。 ・スクールカウンセラーや関係機関と連携し、コミュニケーション力育成のための生徒及びPTA向けの心理学講座を実施する。 イ、生徒保健委員によるミニ・クリーンキャンペーン等を実施し、校内美化意識を向上させる。 ・クリーンキャンペーン等の校内外清掃を実施し、地域全体の環境美化に対する生徒の意識を高める。 ・点検活動等を強化し、校内清掃を徹底させることで、校内美化の意識を向上させる。 ウ、生徒と教職員による安全点検を各学期ごとに行い、安心・安全な学校環境を維持する。 ・関係各機関と連携し、防災教育や防災訓練、救急処置講習会等を計画的に実施し、地域的な防災・安全対策を推進する。 ・職員防災研修や生徒保健委員会主催の防災活動、災害の発生時間や場所に变化を持たせた避難訓練等を行う。 ・生徒の健康課題の解決に向けた各種講習会を学年ごとに計画的に実施する。	ア、生徒・保護者向け学校教育自己診断での教育相談に関する項目の肯定率が生徒保護者教員の平均85%以上（H28:平均84.1%） イ、ミニクリーンキャンペーン年間10回の実施（H28:10回） ・生徒保護者教員向け学校教育自己診断の清掃に関する項目の肯定率の平均が60%以上（H28:54.1%） ウ、安全点検の実施と事務室による対応結果の確実な共有 ・防災教育や各講習会後の生徒対象アンケートにおける理解・認識の向上に関する肯定率85%以上（H28:94.8%）	
4 校内組織・教職員集団づくり、連携強化	（１）校内組織の活性化、教師集団づくり （２）校務の効率化 （３）地域・保護者との連携強化、広報活動の充実	ア、「基本的生活習慣・規範意識の確立」「学力の向上」「授業力向上」「新教育課程の編制」を学校全体の大きな取組み課題ととらえ、分掌を超えての連携ならびに役割分担の明確化を行い、運営委員会での方針決定のもと、機能的に課題を解決する。 イ、各首席が学務グループ長、生徒グループ長として、上記横断的課題を解決するため、各分掌間の連絡調整を綿密に行う。 ウ、職員会議内のミニ研修を活用し、「知りたい」「知っていてほしい」課題についてのタイムリーな研修とする。そのことで常に学び続ける教師集団を形成する。 ア 校内メール、共有フォルダ、スクリーン映写資料を活用して報告事項の精査、資料の簡素化、会議に要する時間のさらなる短縮をめざす。 ア・学校行事・クリーンキャンペーン・登下校指導の機会を利用し、地域住民や・PTA等の保護者との連携を強化する。 イ・広報PTが中心となり、より効果的な広報活動についてトータルに検討し実施する。	ウ、ミニ研修の実施3回以上（H28：3回） ア、教員向け学校教育自己診断の職員会議の時間短縮に関する項目の肯定率75%以上（H28：70.2%） イ、保護者向け学校教育自己診断の広報に関する項目の肯定率75%以上（H28:74.3%）	